

自分を見つけてもらおう！

交通事故に遭わないように「狙う」ことができる。これが両親とわたしで話し合ったなかで出てきた大切な言葉でした。

「交通事故に遭いませぬように。」と願うしかないのではなく、自ら考えて行動や対応をすることで交通事故に遭わないようにすることができそうです。両親との話し合いの中でまず出てきたのが、そもそも事故を起こす前に止まれば何も起きないということでした。しかし、それは理想的な極論で実際には止まれないから事故が起きてしまいます。なぜ止まれないのかとさらに話し合いを進めていくと、止まるまでの時間や距離に余裕がないからという答えが出てきました。ではなぜ余裕がないのか。それは気付いてなかったり気付くのが遅いだけだからです。よそ見をしていて気付かないのは当たり前ですが、運転席からの死角で気付か

ない場合や周りの色と同化して目立たないので気付くことが遅れることがあると両親に教えてもらいました。実際に車庫にある父の車の運転席に座って説明してもらいましたが、窓の枠や窓の下は全く見えない。座席に座っている目線なので、周りの車が邪魔して見通しが悪いことが分かりました。

自動車には死角が多くあり、そして父が言っていた周りの色と同化して目立ちにくいということの逆をすれば自動車から見つけてもらえたとわたしは考えました。そのため、気を付けたいことは、「運転手はわたしが居ることに気付いていないかもしれない。」と思うこと。そして、早く気付いてもらえるように「なるべく目立つ色をした服装にすること。」この二つのことを交通事故に遭わないように「狙う」ために外出する時に心がけていきます。

今までにこんなに交通安全について両親と話す機会がありませんでした。今回、毎日運転をしている両親から運転手の立場からの話を聞けてすごくためになりました。